

日合商は昭和 52 (1977) 年に合板・建材を扱う流通業界の活性化と、関係官庁に意見書が提出できる組織として発足した歴史ある組織であり、業界唯一の国の認可団体です。その「会勢強化」は、業界の活性化につながるものです。また、新規会員・賛助会員の数が増えることで関係官庁への発言力も増し、社会的な影響力も拡大していくものと考えています。

2023 年 3 月 23 日 (木) 13:30 ~ 14:30

日合商 2022 年度 第三回理事会を開催しました

出席理事数 50 名 (会場出席 30 名、書面出席 20 名) 出席監事数 6 名 (会場出席 4 名、書面出席 2 名)

足立建一郎理事長、小川明範副理事長、石本勝範副理事長ら本部役員はじめ、北海道・東北・北関東・東関東・東京・神奈川・中部日本・関西・中国・四国・九州・沖縄の各支部から理事・監事合わせて 34 名が、千代田区の LEVEL XXI (Twenty-One) 東京会館に集まり、開催されました。

理事会に先立ち、本年 2 月 28 日にご逝去された井関和彦氏 (四国支部理事) への哀悼の意を表して黙祷を捧げ、足立建一郎理事長の開会挨拶の冒頭でも、井関和彦氏の日合商発展への多大なる貢献に感謝を述べて弔辞としました。

足立建一郎理事長から、コロナ禍が収束に向かっているものの、合板市況の低迷、加えて住宅ローン利上げへの動きや資材価格高騰による住宅需要の縮小とダブルパンチを受け、業界の潮目が大きく変化している中でも合板の適正な利益の確保に努めること、また差し迫る「物流の 2024 年問題」を乗り越えるため「無償のおもてなし物流」の慣習から脱して「有償のサービス」へ変えるためにも、日合商の基本理念『協調と連帯』に立ち返って進んでいくことを呼びかけました。

理事会は、足立建一郎理事長が議長となって第一号議案から第五号議案まで審議が行われ、全会一致で可決承認されました。

なお、第三号議案審議では、第 44 回通常総会の主管となる四国支部 村上高志支部長がより多くの参加を呼びかけ、第 45 回通常総会の主管となる関西支部からも丸敏幸支部長と中村憲夫理事から開催内容の説明がありました。

つづいて、報告事項 1. 2022 年度要望 (陳情) 活動について、報告事項 2. 日合商 (本部) の適格請求書発行事業者登録等について、事務局が報告。議長から事務局に、その他議案について提案がないことを確認して審議を終了し、閉会しました。



故・伊関和彦氏に黙祷を捧げる



足立建一郎理事長、小川明範副理事長、石本勝範副理事長が出席、足立建一郎理事長が開会挨拶



第 44 回通常総会への参加を呼びかける四国支部 村上高志支部長



第 45 回通常総会開催の準備状況を説明する関西支部 丸敏幸支部長、中村憲夫理事、関西支部理事の面々



2023 年 3 月 23 日 (木) 14:45 ~ 16:45

2022 年度 第二回合板需給懇談会を開催しました

日合商 2022 年度第三回理事会終了後、同会場において生販の情報交換の場として、林野庁林政部木材産業課 課長 齋藤健一氏と流通班木材専門官 長谷川太一氏ご陪席のもと 2022 年度第二回合板需給懇談会を開催しました。

日本合板工業組合連合会から井上篤博会長、野田四郎副会長、大和田康司副会長代理、井垣正光理事代理、岸博一理事代理、上田浩史専務理事ら 6 名、日合商から足立建一郎理事長、小川明範副理事長、石本勝範副理事長、全国各地の支部から理事・監事ら 34 名が出席しました。

懇談会に先立ち、日合商足立建一郎理事長が主催者代表として、合板業界の潮目が大きく変わる中で、生販それぞれの立場から忌憚のない意見を交換して明るい将来に繋げていきたいと挨拶。つづいて日本合板工業組合連合会 井上篤博会長から、新設住宅申請が減少傾向に転じ、合板の品不足から一転して生産調整が欠かせない状況の中にあっても、国産合板メーカーでは国産材活用・日本の森林資源循環を持続可能なものにするために努力しており、一層の合板価格へのご理解と、日本の合板メーカー製品活用をお願いしたいと、ご挨拶いただきました。

林野庁からは木材産業課長齋藤健一氏による林野庁の行政活動について資料『木材需給動向について (全国)』に基づく新設住宅着工戸減による合板・木材需要減少について、また資料『ライフサイクルアセスメント (LCA) による木材利用の評価に向けた取組』に基づいて、建築分野における CO₂ 排出削減の重要性やライフサイクルアセスメント (LCA) による木材利用の評価に向けた取組などの説明がありました。

日本合板工業組合連合会からご出席の皆様から国内の合板供給動向について、ウッドショックの不足状況から大幅な需要減となり、当面は原木の調達量・製造

量の調整を実施して急激な価格下落を食い止める努力を続けていくことが報告されました。

また日合商から出席の各支部代表者からは国内各地の需要動向について、一様に住宅価格上昇により住宅着工数は減少傾向にあり、合板価格低迷で動きが鈍っていることなど、情報交換を行いました。

懇談会を終了後、同じ会場にて着席形式による懇親会を開催。日合商 石本勝範副支部長の乾杯の発声でスタートし、四国支部 村上高志支部長による中締めをはさんで交流を深めました。

日本合板工業組合連合会からご出席の井上篤博会長、野田四郎副会長、大和田康司副会長代理、井垣正光理事代理、岸博一理事代理、上田浩史専務理事



足立建一郎理事長が主催者挨拶



日本合板工業組合連合会 井上篤博会長挨拶



林野庁 林政部 木材産業課長 齋藤健一氏 (写真右) と流通班木材専門官 長谷川太一氏 (写真左)

100th ANNIVERSARY

変革を積み重ね、ともに発展し続ける未来へ

「住まい」もまた、この星の住民なのかもしれない。

この星の資源から生まれ、土に還る。時代や人々の価値観によって、その姿を変える。

暮らしの拠点としてだけでなく、生き方そのものを豊かにする存在。住まいとは何者なのか。どのような未来へ向かっているのか。

ジュテックグループは二〇二三年、創業一〇〇周年を迎えます。私たちは考え続けます。人と自然と住まいの理想的な関係性を。私たちは挑み続けます。ともにこの星に生きる仲間として、これまでも、これから。

合板需給検討委員会 2023 年 3 月 9 日の検討結果

日本合板工業組合連合会・日本木材輸入協会・日本合板商業組合による「2022 年度第四回合板需給検討委員会」を林野庁木材利用課で陪席のもと、合板会館（日合商会議室）において開催。木材行政推進のための情報として林野庁に提供した合板の短期需給見通しの検討結果です。

国産合板の需要

1. 令和 4 年第 4 四半期（10 月～12 月）の実績について 今回（648 千 m3）
(実績数量の背景、前年同期との比較等) 前年同期は、商品不足及び先高観もあり一部では仮需も発生。今期は商品不足及び先高感が払拭され、納期も即納体制になったことから、流通では当用買いを徹底。また、第 3 四半期の持家住宅着工戸数は前年比 88%と大きく減少し、需要は停滞した。前年の仮需発生も考慮し、前年比 79%の見込みを立てたが、結果、前年比 78%となる。
2. 令和 5 年第 1 四半期（1 月～3 月）の見込みについて 今回（620 千 m3）
(見込み作成の根拠、前年同期との比較等) 供給側は 1 月及び 2 月共に稼働日数の減や生産調整を継続していることから供給量は大幅に減少。需要側も市場の落ち込みによる先々の価格の下落を懸念、また 3 月決算を控え在庫抑制に向けて、小ロットでの当用買いを継続。よって、前年比 78%を見込む。
3. 令和 5 年第 2 四半期（4 月～6 月）の見通しについて 今回（630 千 m3）
(見通し作成の根拠) 供給側は 5 月の連休を例年より多めに取り、生産調整を継続。なお、合板市況の目安となる新設住宅着工数は、令和 5 年 1 月時点で持家は 14 カ月、木造は 10 カ月、分譲戸建ても 3 ケ月連続で着工減となり、市場は先行き不透明感が漂う。前年は、価格の先高観や品薄状態が続いていたことから需要は旺盛であったが、今期は長尺合板の非木質系代替品への切り替えによる合板需要の減少、小ロットでの当用買いが継続され前年を下回る見通し。
(前年同期との差異について) 結果、前年比 81%の見通し。
4. 令和 5 年第 3 四半期（7 月～9 月）の見通しについて 今回（680 千 m3）
(見通し作成の根拠) 需要期を迎えるものの、新設住宅着工数が不透明なことから、当用買いは継続されると推測。但し、第 2 四半期での新設住宅着工数の増加や、価格の底値感が打ち出されれば、需要回復への期待も持てるが、現時点では予測外とする。供給は前年比▲7.5%の見通しであるが、流通在庫は僅少なことから需要は前年比微減で推移していく見通し。
(前年同期との差異について) 結果、前年比微減の 97%の見通し。

合板 短期需給見通し

(Unit : 1,000m³)

		供給			需 要 (出荷)			期末在庫		
		計	国内製造	輸入合板	計	国内製造	輸入合板	合計	国内製造	輸入合板
2022(R4)10-12	前回予測	(1,236)	(660)	(576)	(1,300)	(660)	(640)	963.810	105.138	858.672
	実績	1,228.514	663.782	564.732	1,194.170	648.130	546.040	1,057.095	120.790	936.305
計		5,602.029	2,983.323	2,618.706	5,528.861	2,918.756	2,610.105			
2023(R5) 1-3	前回予測	(1,255)	(660)	(595)	(1,340)	(700)	(640)	878.810	65.138	813.672
	見込み	1,170.000	630.000	540.000	1,160.000	620.000	540.000	1,067.095	130.790	936.305
4-6	前回予測	(1,335)	(700)	(635)	(1,340)	(700)	(640)	(873,810)	(65,138)	808672
	見通し	1,260.000	660.000	600.000	1,200.000	630.000	570.000	1,127.095	160.790	966.305
7-9	見通し	1,350.000	700.000	650.000	1,280.000	680.000	600.000	1,197.095	180.790	1,016.305

輸入合板の需要

1. 令和 4 年第 4 四半期（10 月～12 月）の実績について 今回（546 千 m3）
(実績数量の背景、前年同期との比較等) 昨季は、国内針葉樹合板の代替需要が多く、引合いが旺盛であったが、今期は国内針葉樹の供給が安定し代替需要も減少、且つ持家住宅着工戸数も減少したことから、前年を大きく下回る結果となる。前年比 79%の見込みを立てたが、前年比 76%の結果となる。
2. 令和 5 年第 1 四半期（1 月～3 月）の見込みについて 今回（540 千 m3）
(見込み作成の根拠、前年同期との比較等) 輸入商社等は、為替相場が安定しないことから、先行き価格の下落の懸念が残り積極的に新規オーダーを出せない状況。また、需要側も市場の先行き不透明感もあることから買い控えの状態。よって、入荷量相当分の出荷と見込む（前比 80%）
3. 令和 5 年第 2 四半期（4 月～6 月）の見通しについて 今回（570 千 m3）
(見通し作成の根拠) 非住宅物件など建設物件は動き出し、第 1 四半期より需要は回復に向かい型枠合板の需要は出てくると推測されるが、安価な代替品等の台頭があり価格低下が危惧される。また、供給側では先行き不透明感から新規オーダーが増えず、在庫過多なアイテムと不足気味アイテムが混在し、在庫調整は継続されると推測される。本格的な需要回復には時間を要すことから、国内合板と同水準の需要となる見通し。
(前年同期との差異について) 結果、前比 79%の見通し。
4. 令和 5 年第 3 四半期（7 月～9 月）の見通しについて 今回（600 千 m3）
(見通し作成の根拠) 輸入商社等は、需要の先行き不透明感や為替相場の変動リスク等の不確実な状況から、確信の持てる仕入手当てができず、先物買いの決断には苦慮。需要側も先行き不透明感から現時点では先物の引き合いは目立たず。国内港頭在庫の調整が進み、需給バランスが整えば、需要回復に向かうと推測されるが現時点では予測外とする。為替変動リスク、在庫調整の進捗、新設住宅着工数等、先行き不透明なことから、前年比マイナスで推移する見通し。
(前年同期との差異について) 結果、前比 90%の見通し。

東京の合板卸売り価格 (円)		※東京都ベニヤ板問屋協同組合、日本合板商業組合「市況通信」より (注) 1 車単位 (10 トン) 問屋売り価格・90 日手形 (JAS 製品)					
品 目		3 月 15 日	前週比	3 月 22 日	前週比	3 月 29 日	前週比
ラワン JAS F☆☆☆☆	2.3mm T2	970	0	970	0	970	0
	4.0mm //	1,260	0	1,260	0	1,260	0
	5.5mm //	1,550	0	1,550	0	1,550	0
	9.0mm //	2,100	0	2,100	0	2,100	0
	12.0mm //	2,650	0	2,650	0	2,650	0
針葉樹 構造用	F☆☆☆☆ 12mm C-D	2,080	0	2,080	0	2,080	0
	F☆☆☆☆ 24mm 実付	4,510	-40	4,510	0	4,510	0
	F☆☆☆☆ 28mm 実付	5,210	-40	5,210	0	5,210	0
	F☆☆☆☆ 9mm 3×10	3,100	0	3,100	0	3,100	0
輸入・型枠用	12mm JAS 製品	2,240	-10	2,230	-10	2,230	0
輸入・構造用	F☆☆☆☆12mm JAS 製品	2,230	0	2,220	-10	2,200	-20

2023 年 3 月 25 日現在			
【グリーン購入法】に基づき 事業者新認定・期限更新した 6 社			
東関東	-0019- ④ (株)万代	フレカット野田工場 (つくば営業所含む)	代表取締役社長 遠藤 又四郎
東京	-0099- ⑤	モック(株)	代表取締役 榎本 哲也
東京・長野	-0131- ④	扶桑産業(株)	代表取締役 濫澤 一吉
東京 S	-0018- ①	(株)クトクコーポレーション	代表取締役 村石 建治
中部日本	-0053- ③	(株)ハマダ	代表取締役 濱田 博
中部日本	-0067	(有)天野木工所	代表取締役 天野 竜真

窓を考える会社

YKK AP

YKK AP 株式会社
http://www.ykkap.co.jp/

FUKUVI

フクフォーム Eco

FUKUVI SUSTAINABLE PRODUCTS

FukuValue

地球を想う、優しい素材

バイオマス素材を使った断熱材

グラスウール32Kとの比較時

●1棟当たり、CO₂を359kg削減

産業古紙と水発泡を利用

●未使用の紙廃材を再生利用

原材料製造から廃棄まで、
1棟(20坪)分の床断熱材のCO₂排出量

単位:kg/棟

101 226 255 285 289 460

フクフォームEco E-2230

△ 比較しない/火気NG/タッカー留め

「フクフォームEco」は、精製した産業古紙、再生プラスチック、
コーンスターチを原料に、水発泡技術で製造したエコ素材です。

フクビ化学工業株式会社

TEL : 0776-38-8011
MAIL : knz-kikaku@fukuvi.co.jp

概 要

2023 年 1 月の新設住宅着工戸数は 63,604 戸（前年同月比 6.6%増）で 4 カ月ぶりの増加となった。その内、木造住宅は 32,509 戸（前年同月比 3.6%減）で 10 カ月連続の減少となった。季節調整済年率換算値は 89.3 万戸で前月比 5.5%増、2 カ月連続の増加となる。

利用関係別では、持家が 16,627 戸（前年同月比 8.3%減）で 14 カ月連続の減少、貸家は 24,041 戸（同比 4.2%増）で 23 カ月連続の増加、分譲住宅は 22,698 戸（同比 25.0%増）で 2 カ月連続の増加となった。分譲の内訳はマンションが 11,990 戸（同比 69.6%増）で 2 カ月連続の増加、戸建ては 10,576 戸（同比 3.9%減）と 3 カ月連続の減少。持家は減少したが、貸家及び分譲住宅は増加したため、全体で前年同月比 6.6%の増加となった。

国内・外合板の供給量

1 月の国内合板生産量 19.6 万㎡（前月比 92.7%、前年同月比 78.2%）と発表された。その内、針葉樹合板の生産量は 19.1 万㎡（同比 92.3%、78.2%）となり、出荷量は 18.7 万㎡（同比 91.5%、75.4%）で、在庫量は 16.7 万㎡となった。

輸入合板の 1 月度入荷量は 18.1 万㎡（前月比 94.0%、前年同月比 70.8%）と

合板市況と今後の見通し

日本合板商業組合東京支部
東京都ベニヤ板問屋協同組合
新風会 猪爪 清和

なった。国別入荷量はマレーシアが 4.1 万㎡、インドネシアが 5.6 万㎡、中国が 5.2 万㎡となっている。

今後の見通し

国内針葉樹合板は 2 月に引き続き 3 月も低調な荷動きである。メーカーは相場の下落を避けるように働かけているが、現実としては依然安値が聞こえており、弱基調は払拭されない。特に木建ルートは落ち込みが大きい状況となっている。直需関係では仕事量が増えつつあるが、川下からの揺さぶりもあり流通での安値販売が散見される。市況の安定には東西の需給バランスが必須であるため、再構築を図っていただきたい。

輸入合板は産地価格が底値感になりつつあるが、為替が再び円安方向で積極的な購入が難しい状況である。港頭在庫も決して多くはないが、年明けからの荷動きが停滞しているため、供給以上に需要が薄く盛り上がりが見えづらな状況が続いている。現物在庫削減のための安値が散見される状況となっている。

現状、輸入業者は採算割れの商いを続けているが、それがどこまでも続くことはなく、徐々に調整されるものと思われる。産地価格も底打ちの様相を呈していることを考えて行動することをお勧めしたい。

JK 情報センター

2023 (令和5) 年 4 月～6 月需要動向予測

工務店・販売店様による需要予測

国土交通省より 2022 年の新設住宅着工数が発表され、1～12 月の総戸数は 85 万 9,529 戸（前年比 100.4%）と 2 年連続で増加となった。利用関係別でみると、持家は 25 万 3,287 戸（前年比 88.7%）となり、統計開始以来、過去最低となった一方、好調だったのは貸家と分譲住宅で、貸家は前年比 107.4%、分譲マンションは 106.8%、分譲住宅は 103.5%と全体の着工数を牽引する結果となった。

そのような中、2023 年 4 月～6 月の需要予測がまとまった。工務店・販売店の需要予測では、工務店が▲32.6 ポイント、販売店が▲37.9 ポイントと、共に前回調査からマイナスが拡大するとの回答になった。ただし、都道府県別でみると、宮城県、東京都、大阪府、京都府など都市部を中心にマイナスポイントが縮小となっている地域もあり、地域差が窺える。物価の上昇や実質賃金が伸び悩む中、住宅価格の上昇や住宅ローン金利への不透明さも加わり、新築戸建て市場には停滞感も見られる。一方でエネルギーコスト上昇に伴って住宅取得層の ZEH をはじめ住宅の省エネ・高性能化への認知は進んでおり、リフォームやリノベーションによる性能向上工事への関心も高まっている。補助や優遇制度も手厚くなっており、採用率の高まりが今後の住宅市場にどのような影響を及ぼすのか注視したい。

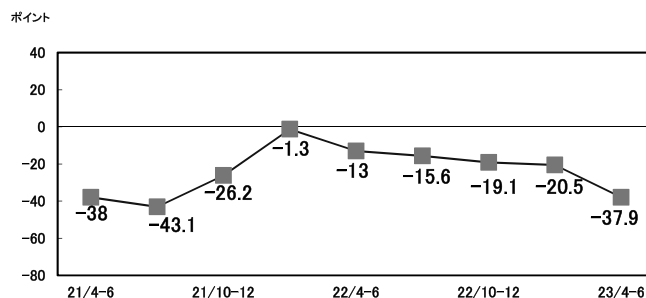
主要メーカー様による販売予測

主力メーカーの販売予測は、合板については全社が減少予測となり、木質建材についても前回調査から減少予測が拡大しており、住宅着工の停滞を予測した結果となっている。住設機器については「増加」が「減少」を上回る結果となり、リフォーム需要、高付加価値商品の販売を含め一定量が確保されていることが窺える。

	増加予測	前年並予測	減少予測
合板	15.4%	7.6%	77.0%
木質建材	43.9%	24.8%	31.3%
窯業・断熱	20.8%	41.7%	37.5%
住設機器	35.0%	35.0%	30.0%

販売店様による景気動向の推移

過去 2 年間の仕事量の見通しをポイントで表したグラフ。

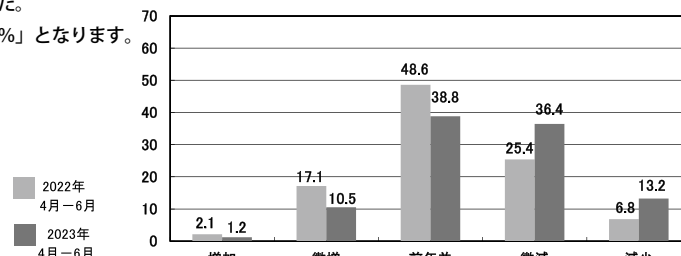


販売様による需要予測

全国 回答数 2,500

「増加」「微増」「前年並」「微減」「減少」の中から選び頂き、総回答数よりそれぞれの割合を算出しました。

単位は「%」となります。



創業から半世紀の伝統と信頼性と高品質。
「日々新・進」をモットーに、
より良い製品提供に努めています。

昭和22年の創立からおよそ 70 有余年にわたり、常に高品質な製品を提供すべく様々なチャレンジをしてきました。おかげさまで良い評判をいただいています。
「和」と「企業活動を通じて地域社会に貢献する」ことを経営の軸として守り続けています。
これからもさらにみなさまのお役に立てるように、業界のリーディングカンパニーとして前進していきます。

人と木を結んで・・・

日新グループ

<http://www.nisshin.gr.jp/>



日新ホールディングス株式会社

株式会社 日新

本社工場 / 埼玉県鴻巣市 100
第二工場 / 埼玉県鴻巣市 100-2
第三工場 / 埼玉県鴻巣市 70
第四工場 / 埼玉県鴻巣市 3-13
第五工場 / 埼玉県鴻巣市 15-38
第六工場 / 埼玉県鴻巣市 1343-1

湖北ベニヤ株式会社

本社工場 / 埼玉県鴻巣市 3-13

島根合板株式会社

本社 / 島根県松江市 895-2
第二工場 / 島根県松江市 168-8

島根県合板協同組合

本社 / 島根県松江市 383
東京事務所 / 東京都中央区築地 4-1-1 (東船ビル17F)

日新バイオマス発電株式会社

本社 / 埼玉県鴻巣市 46-1

NS木質科学研究所

埼玉県鴻巣市 102

日新林業株式会社

本社 / 埼玉県鴻巣市 383
埼玉事務所 / 埼玉県鴻巣市 88
埼玉工場 / 埼玉県鴻巣市 88



基材から表面化粧材の挽き板まで、紹介動画をご覧ください。
すべて国産材を使ったフローリング



WOODTEC

朝日ウッドテック株式会社

<https://www.woodtec.co.jp>



皆様のお越しを心よりお待ちしております！ 第44回 日本合板商業組合 通常総会 in MATUYAMA

【通常総会】5月18日（木）

会 場 ANA クラウンプラザホテル松山

- ・理事会受付 12:00 ~
- ・理 事 会 13:00 ~ 13:50
- ・総 会 14:00 ~ 15:30
- ・講 演 会 15:45 ~ 17:15
演題「激動の国際情勢と日本の課題」
講師 村田 晃嗣 氏（同志社大学法学部教授）
- ・懇 親 会 18:00 ~ 20:00
着座形式のパーティとなります。
アトラクション「サバキ女子」によるマグロの解体 LIVE
- ・2 次 会 20:00 ~



【エキスカージョン】5月19日（金）

- ゴルフコース エリエールゴルフクラブ松山にて



- 観光コース 石手寺お遍路体験&道後散策



日合商各支部で3月に開催された懇親ゴルフ会

3月10日（金）関西支部 懇親ゴルフ大会

茨木カンツリー倶楽部にて 28名参加



優勝した村石建治氏と丸敏幸支部長

成績トップ5（敬称略）

優勝	村石 建治
2位	久々山大樹
3位	中川 康幸
4位	櫻井 健児
5位	古川 浩

3月17日（金）中国支部 山陽地区 親睦ゴルフコンペ

JFE 瀬戸内海ゴルフ倶楽部にて 20名参加

成績トップ5（敬称略）

優勝	三島 英揮
2位	田原真一郎
3位	秦 智志
4位	大之木伸行
5位	本北 洋介

3月21日（火）中国支部 山陰地区 親睦ゴルフコンペ

大山アークカントリークラブにて 参加16名



成績トップ5（敬称略）

優勝	小山 尚悟
2位	小西 治
3位	永間 博司
4位	三島 英揮
5位	谷野 豊

2023年度 定期 日合商 WEB セミナー 予定

講師：清水英雄事務所株式会社
マネージングディレクター 清水 大悟 氏

回	開催月	テーマ
1	6月	短期間で業務効率 UP & 働き方改革を成功させた話
2	9月	工務店支援の全貌、成功事例と新たな取り組み
3	11月	国策まるごと解説！押えておきたい重要ポイント
4	2024年 2月	2024年の住生活産業界の展望

※アーカイブでの視聴も可能です。

★組合員・会員専用ページパスワードは4月3日から変更しています！

ID ▶ nichigoshio パスワード ▶ reiwa05（ゼロゴ）

日合商ホームページ トピックスより抜粋

2023.03.27

お知らせ

JAS 構造材実証支援事業の公募について（事前のお知らせ）

日合商 HP
トピックスへは
こちらから

2023.03.27

官公庁からのお知らせ

JAS 構造材活用宣言事業者の登録に係る要領を改正しました



2023.03.20

官公庁からのお知らせ

【林野庁より周知依頼】マイナンバーカードの取得、健康保険証利用申請及び
公金受取口座登録の促進について

2023.03.16

官公庁からのお知らせ

【お知らせ】「モクレポ〜林産物に関するマンスリーレポート〜（3月号）」

私たちが
世界のために実現出来ること。
**地球と
暮らしを考える。**



JKホールディングスグループでは、
持続可能な社会構築を目指す
SDGs参画を通して、現代社会に

蔓延する多くの課題解決に向け取り組みます。

地球資源を暮らしに活かす企業だからこそ、地球の未来を
想い、人、自然、そして経済の発展に貢献します。



JKホールディングス株式会社

東京都江東区新木場1-7-22 TEL.03-5534-3800 <https://www.jkhd.co.jp>

